

節水チャレンジ小学校

学校

熊本市立池上小学校

学校全体に活動の輪 家庭にも行動が波及



一人一人、節水目標を画用紙に描いて発表
ちゃんと実行できているかな？

熊本市立池上小（大吉佳子校長、325人）では、社会科や総合学習に「環境教育」を取り入れる4年生を中心に、ことし4月から、本格的な節水に励んでいます。

活動に当たり、児童たちはそれぞれ、節水の具体的目標を画用紙に描いて発表。「ぞうきん洗い用のバケツは、1つを共同で使う」「歯磨きの時、水を出しっ放しにしない」などを実践しています。さらに児童たちは、節水の必要性を熊本の水事情の観点から学ぼうと、1学期には、学校近くの西部水道センターを見学し、また、水保全課による節水チャレンジ学習も実施しました。環境教育担当の原口行夫先生は「節水の意識が子どもたち一人一人に浸透してきて、学校全体に活動の輪が広がっています」これらの取り組みが児童の家庭にも波及、「ト

イレの水を流す時は大小を使い分ける」「風呂の水を洗濯に使う」「雨水を花の水やりに使う」など、さまざまに実践されているそうです。原口先生は「今後は具体的な数値目標を設け、さらに頑張りたい」と意気込んでいます。

池上小学校の主な取り組み

- ぞうきん洗い用のバケツは1つを共同で使用
- 歯磨きの時、水を出しっ放しにしない
- トイレの大小（流水量）をこまめに使い分ける
- 校内すべての水道に節水コマ・レバーを設置
- 水道など水回りに「節水ステッカー」を張り付け
- 児童自作の節水ポスターを水道のそばに掲示
- 「節水テーマソング」を給食の時間、校内放送で紹介



校内すべての水回りに節水ステッカーを張り付け、みんなに節水を呼びかけている



ぞうきん洗い用のバケツは1つをクラス全員で共用

熊本市節水推進パートナーシップ会議委員

個人

下 正男様

手作りの雨水タンクなど工夫
楽しい節水で家計も大助かり



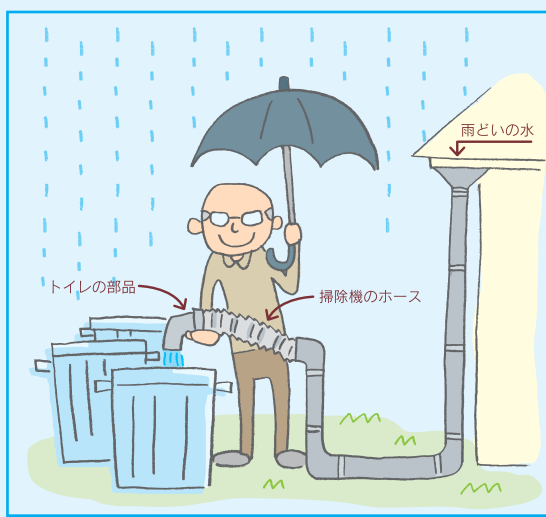
節水歴17年の大ベテラン、下正男さんの節水術は実に多彩です。トイレは節水タイプを導入。蛇口はレバーに切り替え、こまめに閉めます。台所の洗いや米のとぎ汁は庭木にやり、垂れ流しは一切なし。風呂の残り湯はポンプで洗濯機に移して洗いとすずに用い、水道水を使うのは最後のすすぎ1回のみ。

そして、工夫と試行錯誤を重ねたのが雨水の活用術。散水や洗車などに利用しています。庭の一面を占める雨水タンクは200ℓの本格タイプが1基、75ℓのポリ容器が2個、45ℓのポリ容器が4個で、総量530ℓ。年間で15ℓも*再利用。できるそうです。雨水は延長した樋（とい）から雨水タンクに注がれますが、先端1ℓは掃除機のホースを流用。これにより、ポリ容器への注ぎ分けが容易になりました。

このような節水術で下家の水道代は10年前より年間2万円も安くなり、家計も大助かりだとか。

周囲の親しい友人や知人などへも節水の輪を広げる下さん。コツは「負担にならず、できることを目標にすること」だそうです。

下さんの雨水タンク図解



- 雨どいの水を一カ所に集めて、ポリ容器にためる
- 先端部分が掃除機のホースなので、角度の変更が自由自在。満タンになったら隣のポリ容器に移動
- 基本的に、リサイクル品を利用



奥にあるのが、市販の雨水タンク。一晩の雨で、けっこう満タンに

個人

長谷部 孝子様

米のとぎ汁などを散水に利用
できることから一歩踏み出す

「娘の加入をきっかけに一家でわくわく節水倶楽部の会員になりましたが、今では私がすっかり節水に“はまって、います」と語るのは、熊本市大窪にお住まいの長谷部孝子さん。

長谷部さんが本格的な節水に取り組み始めたのは今年5月。きっかけはトイレタンクの水漏れでした。以前は月額1万円程度だった水道代が1万5000円台まで上がったため、節水タンクに切り替えたそうです。併せて、家庭でできる小さな節水活動も始めました。まず取り組んだのは、米のとぎ汁は捨てない、クーラーの排出水を垂れ流しにしないということ。これらはバケツにため置かれ、園芸が趣味の長谷部家に欠かせない散水で再利用されます。

また、水の節約ではシャワーをこまめに止める、歯磨きはコップ一杯の水で済ませるといったことも実践しています。

成果はうれしい形で表れました。昨年7月、8月の使用量は1カ月平均で93㎡（約1万1千円）でしたが、今年は56㎡（約7千円）



「クーラーから出てくる水も無駄にはできませんから」と笑顔で話す長谷部さん

長谷部孝子さんの主な取り組み

- 老朽化したトイレのタンクを節水タンクに取り替え
- 米のとぎ汁を園芸用の散水に再利用
- クーラーの排出水を垂れ流しにせず、園芸用の散水に再利用
- シャワーの水量を必要最小限にするため、こまめに止める
- 歯磨きはコップ一杯の水で済ませる



米のとぎ汁は捨てないでバケツにため置き、園芸用の散水で再利用する

企業

九州電力(株)様



「雨水再利用システム」の雨水ろ過装置

「雨水再利用システム」で水の使用量4割カット

九州電力熊本支店（熊本市上水前寺）では、水資源保全対策を積極的に行っています。同支店ビルは、一見、普通のオフィスビルに見えますが、屋上に降った雨を地下にためて、トイレの洗浄や空調の冷却などに使う「雨水再利用システム」を備えています。

同システムはまず、ビルの屋上に降った雨を地下にある雨水槽に集め、それを殺菌・ろ過して屋上の水槽にくみ上げ、ビル内のトイレの洗浄水、空調の冷却水、屋外の散水用として使用しています。

「このビル内で一年間に使う水約2万5000トンの4割、1万トンの水を雨水で賄っています」と同支店総務部総務グループの志

岐一也さん。

また、駐車場を透水性アスファルトにして、敷地内に降った雨を地下にしみ込ませるなど、節水と涵（かん）養の両面から水を守る取り組みを行っています。

「節水社会実験期間中は、社屋ビルに節水の懸垂幕を掛けたほか、社内の電子掲示板で各人に節水を呼び掛けたり、節水ポスターや同シールで啓発を図りました」

さらに、年間を通して洗面所や給湯室の水道のバルブを調整して水を出しすぎないようにしたり、女子トイレの擬音装置などを通して節水に努めています。

九州電力(株)の主な取り組み

- 屋上に降った雨を地下にため、トイレの洗浄水、空調の冷却水、屋外の散水用に利用
- 駐車場を透水性アスファルトにして、降った雨を地下にしみ込ませている
- 7月の節水社会実験期間中は、ビルの壁面に懸垂幕を掲示。また社内の電子掲示板やポスターで節水を啓発
- 洗面所や給湯室の水勢を調節し、節水に努める
- 節水効果の高い擬音装置付き便器を女子トイレに設置

会員の 節水活動レポート

わくわく節水倶楽部会員の皆さま、7月の「節水社会実験」に参加いただき、ありがとうございました。今年は会員の方々をはじめ多くの市民の皆さまの取り組みで、対14年度比約7.0%減となりました。

引き続き、節水へのご協力をよろしくお願いたします。
今回は会員の皆さまの中から、企業・学校・個人の節水の取り組みを紹介します。

※わくわく節水倶楽部の加入状況[平成19年10月末現在]
延べ構成人数135,858人
[130団体、280事業所、111行政機関、926個人(世帯)]

街で、見かけましたか？ 節水社会実験 応援活動



●南九州コカ・コーラボトリング(株)
(産業文化会館壁面)



懸垂幕看板



●九州電力(株)
熊本支店

●(株)鶴屋百貨店



館内放送
うちわ
パンフレット等配布

「くまもと版神」1階の案内所に置かれた
節水キャンペーンのうちわ

- くまもと版神(株)県民百貨店
- (株)鶴屋百貨店
- (株)ダイエー熊本下通り店
- (株)ダイエー熊本店